

第10回 常総市総合教育会議 会議録

【日 時】 令和5年2月7日（火）午後1時00分～2時40分

【場 所】 常総市役所3階 庁議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議・報告事項
 - (1) 本田技術研究所とのAIまちづくりについて
 - (2) 地域部活動について
 - (3) カーボンニュートラルの取組みについて
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

出席者

教育委員：岡野克巳教育長、秋田敏雄委員、倉持好一委員、荻根文江委員、中山奈央委員

常総市：神達市長、西田副市長、横島市長公室長、小林教育部長、西村学校教育課長、平塚課長補佐、小島係長、中澤指導課長、篠崎指導主事、沼尻生涯学習課長、斎藤スポーツコミッション室長、生活環境課土田係長、小林常創戦略課長、江面課長補佐、宮川未来創生係長

1 開 会（13：00）

常創戦略課長 本日はお忙しい中ご出席をくださいます。誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第10回常総市総合教育会議を開催させていただきます。本日の進行を担当いたします、常創戦略課の小林と申します。よろしくお願ひします。会議に先立ちまして、神達市長にごあいさつをお願ひしたいと思います。

2 市長あいさつ

市 長 教育総合会議にお集まりいただきましてありがとうございます。初めて参加をいただく教育委員の方もいらっしゃいますが、この教育総合会議は7～8年前に教育長のあり方、行政と教育委員会の関わり方をどうするかという大きな転換点を迎えました。それまでは教育委員会の中で教育長を任命するというものでしたが、教育長の任命権者が市長になりました。この背景の一つに、教育再生首長会議があります。これは、教育に特に関心を持った全国の首長達が集まり、文部科学省の提案もあって、行政や首長が教育にもっともっと関わるべきだと提言しました。それにより教育制度が変わったという背景があります。私も、教育再生首長会議の副部長として参加させていただき、定期的に総理も含めて文部科学大臣などと懇談会を持っています。その中で、特に今話題になっているのは部活動の地域移行、学校統廃合、カーボンニュートラルなどです。子供たちを取り巻く環境が人口減少に伴って大きな転換点を迎えているということです。また、自己肯定感を持たない子供たちがどんどん増えているということもあります。さらに、今一番問題になっているのはコロナ禍において不登校の子供たちが激増しているということです。子供たちの教育環境をしっかりと整えることは大人の責任です。そういったことも踏まえ、今後この教育総合会議は頻繁にやっていきたいと思ひます。本日は、常総市の教育をしっかりと前に進めていきたいということで、3つの取り組みを共有させていただきます。また、課題の共有もしながら、みんなで一緒に課題解決をし前進していきたいと思ひます。一つ目は、本田技術研究所との「AIまちづくり」。社会課題である高齢者の移動手段や、本市でも4月から初めてスクールバスを導入しますが、さまざまな公共交通機関に自動走行の技術というものをどういうふうに取り入れていくかという問題です。AIの技術は、今やGIGAスクール、プログラミング教育などさまざまなことに取り入れられています。さらにホンダの最先端の技術を本市では教育や農業に生かしていけるかという、大きな取り組みになります。

二つ目は、地域部活動への移行。先日の総理官邸で行われた教育再生首長会議でも話題の中心になっています。これは、課題が見えている自治体ほどここに挑戦していている現状があります。歴史のあり方を大きく変える必要があります。しかし、先生の働き方改革、競技団体との関わり方、中体連のあり方、地域の指導者のあり方、有償の問題、部活動の顧問をやりたくて教員を目指した先生の立場の問題など、多くの課題があります。そういう部分を共有しながらより良い活動を目指していければと思います。三つ目は、カーボンニュートラル。本日お越しの秋田先生に教育委員に入っていて、心強い限りです。本市も、ゼロカーボンシティを宣言しました。今全庁的に目標を掲げカーボンニュートラルに取り組んでいきます。特に、カーボンニュートラルは教育が重要です。民間はかなり進んだ取り組みを行っていますので、今後は官民連携により子供たちも含めて次の時代につなげていきたいと思っています。なによりも、これは常総市の使命だと私は思っています。水害を経験した本市だからこそ、地球温暖化に伴う風水害の頻発に対応していかなければなりません。

以上、三つの施策・事業について、本日は皆さんと議論を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

3 協議・報告事項（1）本田技術研究所とのA Iまちづくりについて

常創戦略課長補佐 (資料に基づき説明)

市長 今、説明いただいた中で、私が一番可能性を感じているのはA I×教育だと思います。今の子供たちは、私が子供のころと全然違う環境にあります。ジョイスティックを器用に操ったり、Y o u T u b eを見たり i P a dをやったりしています。学校ではパソコンで授業を行っています。当然のように、A I技術に接しています。本市の子供たちは、ホンダの実証実験を身近に感じ目の前で見ることができる。これは発想の転換につながると思っています。将来的には、年収 2,000 万円や 3,000 万円の技術者になる人がこの常総市から多く誕生し、さらに常総市にたくさんの技術者が集まってきて、人口減少に歯止めがかかれば良いと思っています。

荻根委員 A Iの技術はすごく画期的で素晴らしいと思う。これから生活や教育の中に導入されていき、市民の生活は便利になっていくことでしょう。一方で、学校に行けない子供たちが多くいることも事実です。子供たちの心のケアもしていかなければならない。教育に携わる人も含め、同じ方向を向いて進んでいかなければならないと思ひます。誰も取り残してはならない。アンテナの高い人はごく一部で

す。A Iについていけない人を作ってしまうと夢物語になってしまう。

市長 本当に貴重なご意見だと思います。私も、最初はデジタル化とかA Iとか、若い人だけの話だと思っていた。でも、実際はそういうことではない。弱者や高齢者、こういうものになかなか興味がわからない人のためのデジタル化やA Iなんです。ホンダが提唱している「いつでも、どこでも、どこへでも」は誰でも可能にすることです。こういう技術は、弱者や高齢者のためにこそある。また、子供たちの心のケアは非常に重要なことです。外国人の多い本市では、来年度から、外国人向けの「E-tra ノート」を県内で初めて導入します。それもコミュニケーションツールとしてのA I技術。

倉持委員 賀詞交歓会の時、Wapochi（ワポチ）を見てすごいと思った。これは便利なものだと。道の駅とイチゴ農園は移動するには私には少し遠い。距離的な困難さをホンダの技術で解消できる。それから、子供たちにA Iが浸透していることも実感したこともあった。デジタルは、学習に向かわせる姿勢も変える。可能性はもっとたくさんあると思う。それから、コンソーシアムとはどういったものか、もう少し詳しく教えてほしい。

常創戦略課長補佐 コンソーシアムについては、常総市とホンダと、またいろんな企業さんと、更には市民の方も巻き込んで、この自動運転やA Iを活用してどんなことができるのかという部分について議論をしていく予定です。例えば、今日も触れましたが教育という分野でどういうことができるのか、そのほかにA Iと農業を掛け合わせてどういうことができるのかといったことを考えております。スタートに向けた前段として、プレコンソーシアムとして約半年ぐらいから取組みを始めています。市の若い職員と本田さんの若い職員でどういった取組みができそうかと、ディスカッションを行っていました。A I×農業やA I×特産品といったアイデアを抽出したほか、アイデアだけに留まらず、どのように実現していけるか、ビジネスモデルにできるか。そういったものも視野に入れながら、今春より取り組んでいく予定です。

教育長 A Iを使った教育は遅かれ早かれ導入される。市内の子供たちは身近に接することができる良い機会。

市長 倉持委員がお話しされたとおり、パソコンとかA Iは子供たちにとっては私らよりも馴染みがある。2月12日のパネルディスカッションでも、水海道一高の校長先生や生徒さんもお越しになりますので、さまざまなアイデアを出してくれると期待しています。A I技術は、子供たちの発想やアイデアばかりでなく。市民の方の困りごとや課の解決にも役立つ。

コンソーシアムは行政とホンダだけではなく、建設業や商店の皆さんなど民間も巻き込んでいく。今はお金を現金で払わない時代になっている。決済システム一つとっても、大きく世の中が変わろうとしている。市が持っているビッグデータや教育の分野で持っているデータを活用しながら、困っている子供たちやお年寄りに便利になるようにしていく。その中から事業化し、利益を生み出す会社が市内から出てきたり、そういう企業を誘致するとか、まさにシリコンバレー的な考えと全く一緒だと思います。そういう可能性を市民参加で探っていくって、課題を抽出しながらどういうふうに解決できるかというものを話し合っていく場です。成功事例がどんどん立ち上がってくると、周りへの波及効果も出てくる。そうすると、シビックプライドが醸成されてくる。

北海道北広島市では、一つの学校が一つのビニルハウスでトマトを栽培している。しかし、子供たちはビニルハウスに行かない。全部学校にあるパソコンで遠隔操作する。そんな子供たちと農業とAIの関わり方もある。今では、eスポーツで高校生が大金を稼ぐ時代でもある。常識では測り知れないことが世の中で起こっている。これまででは考えられない可能性を、この常総市から探っていきたい。それでは、次の議題にまいります。

協議・報告事項（2）地域部活動について

指導課指導主事
スポーツコミッション室長

（資料に基づき説明）

市長 これはもうやらざるを得ない状況にきているのが現状でございます。一つの学校だけでは一つの部活動がもう成り立たなくなっている。選手がそろわない。部活がある学校とない学校で差が広がる。中学校の部活動でなくクラブチームに入りたい子供も出てきている。両輪になってきているところもあるので、先生の働き方改革の観点からもいかに地域、競技団体と連携しながら子供たちが好きなスポーツをやれる環境作りしていくかが大事になってくると思います。

教育長 大事なのは、常総市としてどう取り組んでいくか。市スポーツ協会もそれなりに活動している。そういったところと連携することはできる。ない部活動はない。全ての競技に応えられない。

市長 ミニバスケットでもクラブチームを立ち上げる動きがある。一方でどうすれば良いかわからないという人達もいる。行政としては、最後

はお金の問題になる。お金のない家の子供は部活ができなくていいのか。

教 育 長 どの種目も登録は一チームでしかできない。例えば、体動かす程度で良い、何かの競技を少しだけやりたいという子はお金を払わず登録せず遊びに来るのもありでも良いと思う。

協議・報告事項（3）カーボンニュートラルの取組みについて

生活環境課 （資料に基づき説明）

市 長 環境問題は、まず環境教育から始めていく。そして、民間も含め市民の皆さんとゼロカーボンを進めていきたい。スペシャリストの秋田先生から感想やアドバイスをお願いします。

秋 田 委 員 常総市がゼロカーボンシティ宣言をされたこと、私は非常に素晴らしい取り組みだと思います。これからは、具体的にどのような動きを始めて、どう取り組んでいくかが、当然必要になってくるわけです。私が今進めているところでは、環境教育による機運の醸成ということ。子供たちにまず種まきをしています。地球温暖化ってどういう影響があるぞ、このまま何もしなかつたらどうなるか。石油は、地球の資源ですけど、このままだとあと40年くらいで地球からなくなってしまうというデータが出ています。40年石油を使い果たしてしまう。そうならないために、小学生でできることって何だろうねっていうような話を進めて、温暖化による影響も含めて話をしています。夏の平均気温が、2100年には今よりも高くなって44度ぐらいになる。もうどうしようもない状態になっていくと思います。小学生が自分は何ができるのかな、家庭で何ができるのかなっていうことを訴えかけています。エアコンの羽は暖房の時には水平にしたほうがいいのか、あるいは下向きにしたほうがいいのか。そういうレベルの話をしています。また、普段使っていない電気製品のコンセントを抜けば1年間で6,150円の節約になるよと説明しました。そうしたら、ありとあらゆるコンセントを抜いて、しまいには冷蔵庫のコンセントまで抜いてしまった子供もいたそうです(笑)。そういうレベルから始まっていくといいのかなと思っています。もう一つは、我々大人ができる取り組みとして、エコドライブ宣言都市なんかもいいのかな。車を発進させる時に実際にアクセルを踏んで5秒で何km/hくらい皆さん出ていると思います。大体の人が30～40km/hは出るんです。重い車を走らせるためには、当然ガソリン

も使う。これを5秒間で、20km/h ぐらいのスピードで徐々に上げていくように心がける。それから、信号で止まる時は早めにアクセルを離す。そうすると、ガソリンの使用量が少なくて済む。こういうエコドライブも市民に向けて発信していくと良いと思う。

今、市の公用車で電気自動車は何台あるか。

生活環境課 今1台です。

秋田委員 ぜひ、予算をつけて台数を増やして行ってほしいと思います。

市長 本当にこれはみんなで取り組んでいかなければなりません。教育分野からまずスタートしていきながら市役所も含めて取り組んでいきたいと思います。エコドライブも重要ですね。それから、サイクリングロードの活用も含めて、自転車での通勤も増やしていく取り組みもしていきたい。喫緊の課題としては、常総広域のごみ処理場が受け入れられないぐらいにごみが増えている。さらに、分別がされていなく、炉がダメになってしまった。修理費や他のごみ処理場に運ぶなど、市民の方にさらに費用負担をさせる結果になってしまう。とにかく、家庭や学校における環境教育を地道に行っていきたいと思います。

時間がだいぶ過ぎてしまいましたけども、今後ともいろいろご協力いただければありがたいと思います。

以上で、終了いたします。

4 その他 教育部長

中高生新聞・子ども新聞についての説明

5 閉 会 (14:40)